

D4

Translaion

Utility Model Application Publication No. S58-192255

Utility Model Application No. S58-192255

Date of filing: June 18, 1962

Title of the invention: Press-through-pack packaging

Inventor: Hirohito Yamamoto

Applicant: Sumikei Aluminum Foil Welding Kabushiki Kaisha

Partial translation

Claim

A press-through-pack packaging comprising a synthetic resin sheet (1) which comprises contents housing portions (3), a sheet (4) such as a metal foil bonded to the synthetic resin sheet by means of a bond (5), a synthetic resin film or paper (7) bonded to the metal foil sheet (4) by means of a bond (6) and cutting lines (8) which are formed about the contents housing portions so that the contents can be separated for each of the contents housing portions, wherein there are formed portions (10) about the cutting lines (8) in which the synthetic resin sheet is not bonded to the metal foil sheet.

公開実用 昭和 58—192255

D4

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭58—192255

⑫ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 65 D 75/64  
75/34  
77/30  
83/04

識別記号

庁内整理番号  
7312-3E  
7312-3E  
7123-3E  
7617-3E

⑬ 公開 昭和58年(1983)12月21日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑭ PTP包装材

東京都千代田区内神田一丁目10  
番1号住軽アルミ箔株式会社内

⑮ 実 願 昭57-90115

⑯ 出 願 人 住軽アルミ箔株式会社

⑰ 出 願 昭57(1982)6月18日

伊勢崎市柏川町1670番地

⑱ 考 案 者 山本博人

⑲ 代 理 人 弁理士 地田美久

明 細 書

1. 考案の名称

P T P 包装材

2. 実用新案登録請求の範囲

内容物収納部を具備した合成樹脂シートと金属箔等のシートとを重合接着させ、該金属箔シートの外面に合成樹脂フィルムや紙が接着され、かつ内容物を単位包装体に分離できるように前記内容物収納部の周囲に破断線が設けられているP T P包装体の前記破断線形成部位近傍に合成樹脂シートと金属箔シートとの間に重合接着していない未接着部が形成されることを特徴とするP T P包装材。

3. 考案の詳細な説明

本考案は合成樹脂シートの内容物収納部に被包装物を収納後、金属箔等のシートを接合し密封するようにしたP T P（プレススルーパック）包装材に関するものである。

従来、錠剤、キャンデ、雑貨等の物品を密封収納するP T P包装材は、内容物収納部を有する合成樹脂シートと金属箔（通常使用されている金属

(1)


514

箔はアルミニウム箔である)とを、ヒートシール用接着剤を介して重合接着することにより形成されている。そして、合成樹脂シートの内容物収納部を押圧することによつて金属箔を破断させ、被包装材である内容物の取出しができるようになっていゐる。

ところが、かかる包装材によれば容易に金属箔等を破断させることができるので、小児の手の届く所に包装材があつた場合小児が悪戯で内容物収納部を押圧し、金属箔を開封させてしまうという不都合があると共に小児は開封後被包装材を口にす傾向があり小児にとつて好ましくない被包装材とが小児に害を与える被包装材の場合には、不慮の事故さえ招くおそれのあるものである。

また、被包装材が粉状物であつたり、または顆粒状である場合は、知らない間に内容物収納部を押圧し、粉状物または顆粒状物を落ちこぼし飛散させるという問題があつた。

本考案は、上記実情に鑑み考案されたもので、小児の悪戯による開封とか知らない間の開封等



よる問題点が改善されかつ開封も容易なPTP包装材を提供するものである。以下本考案を図面について説明すると全体を符号Aでしめす包装材において、1は合成樹脂シートで、該シートは成形可能でかつ硬化する合成樹脂シート例えば塩化ビニル樹脂、塩化ビニリデン樹脂、アクリル樹脂、メタクリル樹脂、ポリオレフィン樹脂（PE，PP，PET）、ポリスチレン樹脂（UPS，HIPS，GPPS，PSP）やかかる樹脂の貼合及び共押出しシート等で成形したもので、該合成樹脂には被包装材2を収納する内容物収納部3が多数設けられている。4は金属箔で通常アルミニウム箔が使用され、金属箔4の上面には塩化ビニル・酢酸ビニル共重合体等の接着剤5が塗布されている。なお、接着剤5は共重合体成分である塩化ビニル・酢酸ビニルの配合比を変えることにより適宜の接着力を与えることができる。また金属箔4の他の一面（下面）には符号7でしめすプラスチックフィルム等の合成樹脂フィルムや紙がエクストルーゾンラミネート法、ドライラミネート法、グルラミ



ネット法、ワックスラミネート法等を用いて接合される。

したがって小児が悪戯で収納部を押圧しても合成樹脂フィルムや紙が接合してあるので簡単に金属箔 1 は破断されなく、また知らない間に内容物収納部を押圧しても金属箔は破断することはないものである。

一方、内容物収納部 3 の周囲には破断線 8 が刻設され、夫々の被包装材 2 が単位包装体 9 に分離できるようになつてゐるが、前記接着剤 5 は破断線 8 を刻設した近辺部位 10 には塗布されてない。したがって、破断線 8 を折曲して単位包装体 9 に分離切断したとき未接着部があるので、合成樹脂シート 1 の端縁をつかんで引張ると合成樹脂シートと金属箔 4 が簡単に分離できる。

なお、本考案に係る P T P 包装材の内容物収納部 3 は第 2 図に示すように合成樹脂シートにのみ膨出部を形成してもよいが、第 3 図に示すように合成樹脂シート 1 と金属箔 4 の双方に膨出部を設けて両者を合体することにより所定の大きさにな

るように形成してもよい。

また、金属箔は一以上の金属箔の積層体であつてもよい。

以上の説明で明らかなように、本考案に係る P T P 包装材は金属箔の下に合成樹脂フィルムや紙が接合されているので小児が内容物収納部を押圧しても金属箔は破れるおそれがなく、また透明な合成樹脂フィルムを使用しているので金属箔に印刷された文字・模様等を損うおそれがない。

そして破断線の近辺部位は、合成樹脂シートと金属箔とが未接合であり、破断線を折曲して単位包装体に分離した場合合成樹脂シートの端縁がつまみ易く、該端縁をつかんで引張ると合成樹脂シートと金属箔とを簡単に分離することができるものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は一部切欠した P T P 包装材の正面図、  
第 2 図は P T P 包装材の一部切欠した断面拡大図、  
第 3 図は他の実施例の P T P 包装材の一部切欠した断面拡大図、第 4 図は単位包装体に切断した一



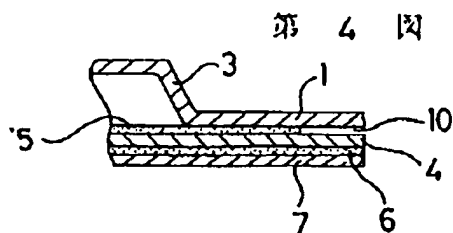
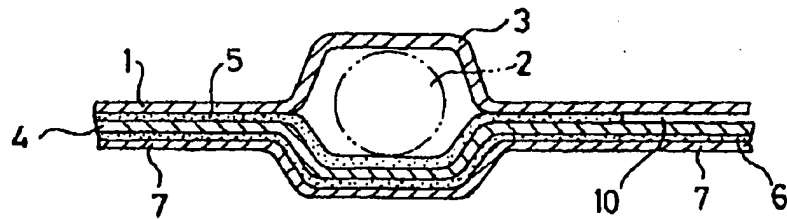
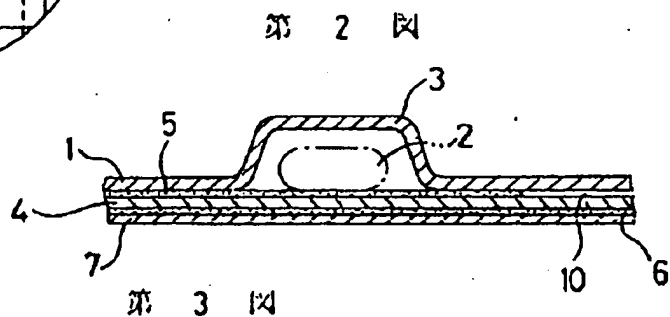
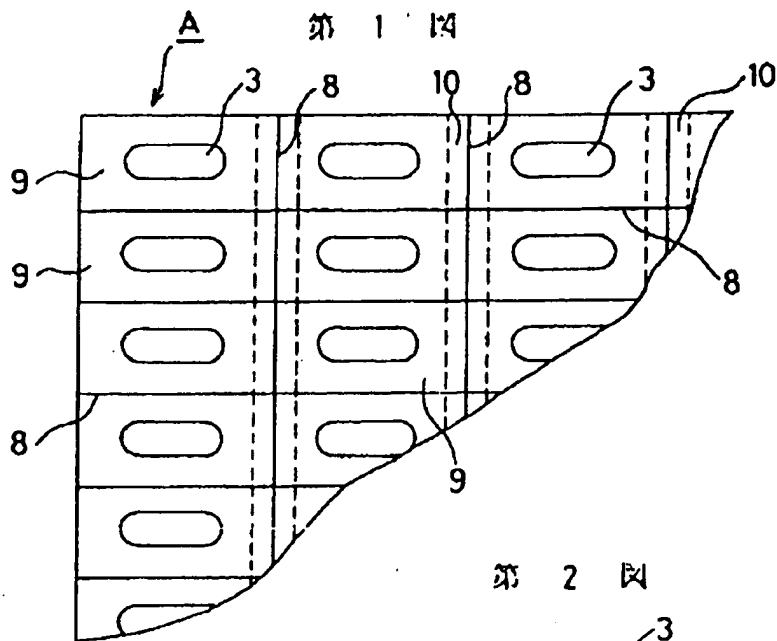
部切欠した断面拡大図である。

1 … 合成樹脂シート、3 … 内容物収納部、8 …  
破断線、4 … 金属箔、5、6 … 接着剤、7 … 合成  
樹脂フィルム。

実用新案登録出願人 住軽アルミ箔株式会社  
代理人 弁理士 地 田 美 久







特開 58-19225 号

実用新案登録出願人 住軽アルミ箔株式会社  
 代理人 佐野士 地 田 美 久 (印)